2021 年度第 1 回幹事会
日時　2021 年 6 月 12 日
場所　リゾートインラリー（長野県小県郡長和町）
出席 20 名（うちオンライン２名）　（欠席者　菊池、寺田、藤澤）
インカレ実行委員会　前中

議題
１．秋インカレについて
２．インカレ実施規則・及びガイドラインについて
３．インカレミドル枠振り方法
４．UNIVAS 登録案内
５．後援大会申請
６．各部局報告
※太字のものは後日オンライン上で議論を行った。

若月　欠席者もいるため議題の承認については後日 Google フォームを用いて行う

１．秋インカレについて
【若月】　議論内容は、インカレの配信事業および参加費について、2 日間開催の可能性について、最後に頭出しという形で日学枠について。議題に入る前にまずは実行委員長から現状報告をお願いします。
【前中】　秋インカレの会計について、そして開催形態について二点相談がある。はじめに会計について。現在 2021 年度大会の予算案を作成中。昨年度の参加者数の水準で予算を組んだ場合 140 万円の赤字が出る見込みとなっている。ただし参加費は昨年並み、併設大会を行わないとした場合の試算である。なお、昨年の参加費はコロナの影響を鑑み、一昨年と比較してかなり下がっている。
　現在見込まれている 140 万円の赤字の削減方法として 3 点考えている。①演出費用の削減②運営者への手当の削減③地図作成費の削減である。まず演出について。今年のインカレで 2 日間配信を行うと最低でも 20 万円、多くて 40 万円程度かかる。非常に大きな額であり、インカレの予算に入れて成立させることは困難。2 点目の運営者への手当については、コロナ以前では増やしていく方向へ進んでいたため、これを削ることは今後のためにはならない。地図作成業者への報酬の削減は、業者の善意によるものであるためなるべく避けたい。予算的に厳しく、削れるところはあるもののなるべく削りたくないという状況である。
　以上に上げた 3 つの削減対象について、演出費については、そもそも演出をやるかやらな

いかで変わるので早く決めたい。残る 2 点については学連からの補助があればありがたいが、これについてはすぐに決める必要はないので頭に入れておいていただきたい。

今一番話したいのは配信費用について。配信に 20-40 万円程度がかかる見込みであるが、それについて用途を配信費用に限定した形での学連からの補助を検討してほしい。配信については実行委員会から希望を出して行うものというよりは、現役学生の思いによるものであると考える。まずは学連から 20-40 万の補助がだせるかも踏まえて考えてほしい。また、演出費を捻出する手段として参加費を上げることも挙げられる。しかしこれに対しては、配信という主に大会に参加しない人に向けたものにかかる費用を参加者から集めるのはいかがなものか、という意見もある。

まずはここまでで会計に関する話を終えるが、何か質問や意見、補足などあればお願いします。

【谷野】　昨年配信を行った理由について。昨年は半数近い大学がインカレに参加することができず、そういった参加できない学校の学生にもインカレの会場の空気感を伝えるために必要だと学連側が考えた結果実現した。

【若月】　昨年のロングの配信費については参加費から賄われたのか？

【谷野】　昨年のロング運営はそもそも赤字で、学連からの補助金 400 万から捻出した。

【若月】　スプリントについてはどうだったか。

【谷野】　スプリントは寄付金・補助金によるものが大きい。

【前中】　寄付金や補助金の申請を検討しているほか、配信業者と相談し収益を上げるための策を練っているので実際に 20-40 万円がかかるかは分からない。だが学連からこの額を負担できることが保証されない限り動き出すことができない。

【若月】　大会会計に関する話は以上となるので一旦議論に移る。費用負担の懸念事項も踏まえつつ、今年も配信を行うかについて考えたい。

【金澤】　意見として。昨年度はインカレに参加できない人にインカレの空気感を伝えるためのものとして配信があったというのであれば、参加できるかどうかの状況によって配信するかどうかを検討するのが望ましいのではないだろうか。たとえば全校参加できるのに配信をする意味があるのかは個人的に疑問に思う。配信事業を行うかどうかの判断が遅れることは、運営のスケジュール上難しいか。

【前中】　具体的なスケジュールをこの場で応えることはできないが、配信機材は貸出品であるためあまり遅くなると難しい。昨年の開催判断は 1 か月前であったが、そこまで待つことはできない。いつまで待てるかは配信機材を借りる業者に聞かないとわからない。

【金澤】　おそらく配信事業の決断を遅らせれば遅らせるほどかかる額は大きくなるだろうがどうだろうか。

【前中】　それも不確定ではあるがまずそうだろう。早めに決めるに越したことはなく、運営としては今の段階で判断してもらえるとありがたい。

【谷野】　昨年は参加できない大学に会場の空気感を伝えることを目的に行った配信事業

であるが、感触としてはそれ以外の効果もあったように思う。たとえば新歓で使えたり対外的にオリエンテーリングという競技を示すうえで有用であったりという副次的な効果も感じられた。
【若月】　昨年と同じように配信事業を行うとしても、昨年とまったく同じ目的でやる必要はないだろう。昨年の結果を踏まえた上で判断をしていきたい。昨年と同じ目的であれば参加数が判断基準になるだろうが、競技の普及・発展を考えるのであれば違う考え方もできるだろう。何を目的とするかも含めて何か意見がお願いしたい。私の意見としては、普及を進めることが我々の使命であり、その上で有用であると言えるため多少費用を負担してでも行っていくべきではないだろうか。
【衣笠】　昨年の配信事業の結果が普及に貢献したかどうかが個人の経験談に終始しており、客観的にどのような影響があったかを考えたほうがいいのではないだろうか。
【羽田】　OBOG などへの広報効果により賛助会員からの寄付金が増えた、といった明確なメリットが見られるのであれば配信事業を行う意義は十分にあると言えるのではないか。
【若月】　因果関係を断言することは難しいが、そういった見方があることは言えるだろう。
【浴本】　私は配信事業を行うことに対しては反対である。会計監査として、コロナ化で会計がひっ迫している中負担がさらに増えることは好ましくない。また、配信があることで遠隔地の本来参加するはずだった人の参加が減り収入減につながりかねないのではないか。
【若月】　配信がされることで参加者が減るかどうかは何とも言えない。他に意見のある方は。
【粟生】　配信による継続的な効果があるかは続けてみないとわからない。昨年の一例だけを見て効果を評価することはできないのではないだろうか。効果を期待するのであれば数年続けたうえで判断するのがいいのではないか。
【衣笠】　配信事業による二次的な効果というものは、インカレで配信事業を行う目的にするには説得力に欠けるのではないだろうか。新歓で活用するのであればそのための動画を作成すればいいし、ロングの紹介についても昨年のものがある中で今年もやる必要性は無いのではないだろうか。また継続的に続けることで効果を測るということについては、4 年程度という長期的な継続を見据えるとトータルで 100 万円規模のお金が動き、これを続ける体力が学連にあるかも考えなければならない。
【永山】　普及という目的であっても配信である必要は無いのではないか。大会中に各所で撮った動画をまとめたものを作成するほうが低コストで、かつ先述の目的を達成できるのではないか。オリエンテーリングは見る競技というよりする競技と言え、することができなかった人が動画を見ると思うが、その人も 3 時間もの動画をすべて見るわけではないだろう。配信にこだわるよりはダイジェスト形式のものの方がいいのではいかと思った。
【谷野】　補足すると UNIVAS によるまとめ動画があります。プロの編集者によるダイジェスト形式のものが既存コンテンツとしてある。
【松本】　私が昨年度の全日本スプリントの演出に関わった経験から。スプリントは海外で

は見るスポーツにしようという動きがある。同大会では予算の 15 万円を上限にできることをするという方針だった。中継場所や機材の配置といった計画は予算から逆算して柔軟に対応することができた。スケジュールとしては最終的に業者に機材の発注を行ったのが大会当日の 20 日前。実際はそれよりも前から準備を行っていたので 1 か月以上の時間を見積もる必要はあると思うが、昨年度の全スプの場合は先述のような状況でした。私としてはロングとスプリントの両方で配信をしなくても、どちらかだけでもいいのではないかと思います。来られなかった人や OB の人だけでなく、参加者が振り替える素材としても活用されるのは良いことであると思う。その場合であればまとめたものでもいいかもしれない。インカレの演出に関わる小柴さんなどは明確なビジョンを持っており、映像化を続けていくことに意義を見出している。他のスポーツのように、配信映像による普及効果も期待している。

【若月】　今までの議論を踏まえて実行委員長はどうでしょうか。

【前中】　実行委員会からやりたいかやりたくないかは述べられない。松本さんの話に補足すると、2 日間で 20-40 万、スプリントだけに絞って 15 万円の予算で行うように業者に依頼することは可能だろう。規模を減らした場合に何が変わるかというと、単純にカメラの台数が減る。ただし動画の魅力は落ちるだろう。学連から補助金を出してもらうことが学連の会計上厳しいという話をいただいている。それとは別に参加費で賄うことについてはどうなのか気になる。私個人の意見としては、参加費に上乗せするのが持続的に配信事業を続けるという点からは自然なのではないかと思う。たとえば参加者が 400 人と仮定すると 1 人あたり 1000 円、1 種目あたり 500 円の上乗せとなる。

【谷野】　参加費が上がるかどうかは参加者数の増減にはあまり関係ないだろうという意見もある。これは参加するかどうかの決定には交通費の影響が大きいと考えられるためである。日学から補助はしないという決定をした上で、総会で参加費の値上げの可否を問うという手もある。いずれにせよ学生の意見が汲み取られるべき。

【若月】　現時点で否定的な意見の根拠は金銭面、学連としてお金を出すに足るかが論点となっている。

【前中】　そもそもやる必要があるのかという意見もあるのか。

【衣笠】　学生の参加費に上乗せするとして、それを学生が良いと言えば済む話だと思うが、実際には学生はそこまで深く考えず「いい」と言いかねないかもしれない。配信に対して否定的な人も支払わざるを得なくなりかねないという状況を学連としてどう受け止めるか。

【谷野】　こういった考えは毎年出ている。幹事会としての役割として「幹事会で決める」必要もある一方で、学生全員に問うべきこともあるだろう。その判断もしなければならない。ただし、規約上 20 万円を超える支出については幹事会で決定することはできず、総会を通す必要がある。

【若月】　これは学連で負担するとなった場合の話ですよね？

【谷野】　はい。学連で負担する場合であっても総会で承認を得る必要がある。

【前中】　実行委員会で捻出してやるということも不可能ではないので、やらないとまで言

ってもらう必要はない。参加費負担にする、学連が負担する、いずれも嫌のいずれか。
【永山】　いずれも嫌となった場合は実行委員会で？
【前中】　その場合は実行委員会でお金を確保できたらやるということになる。
【谷野】　配信の是非を決め切ることは難しいので、学連のお金から出してやる必要があると判断したかどうか、総会にかけるとして学生全体の意見がどうか。
【山川】　スポーツ庁の全国大会に対する補助金の検討はどうか。
【前中】　7 月中旬までに出さなければならないが、通るかどうかはまだわからない。
【谷野】　今回の補助金は格式だった組織によるものでないと通らないようである。全日本大会であれば行けるかもしれないが、インカレでは厳しいかもしれない。
【山川】　少し歴史的な話をしておくと、2016 年度頃まで秋インカレには赤字に関連した議論があった。ミドルリレーで同一テレインを使うことができる春インカレと同様の予算体系では慢性的な赤字が発生しており、改善を試みた。スプリントに一般クラスを導入、演出に力を入れるなどの工夫をした。その結果関ケ原、駒ケ根、中津川インカレでは一年生の参加が急増し赤字問題は解消された。しかしながら昨年は新入生の参加費を抑えたもののコロナの影響もあって参加者数は伸びなかった。どうやら今年は昨年と比べて新歓がうまくいっていると聞いているから、新歓の状況をふまえて新入生の参加費をどうするか。これによっても予算が変わってくるだろう。今年はついに 3 年次まで春インカレを知らない代になるという状況に陥った。インカレの感動を伝えることの継続性があるかどうかが重要で、それに配信が寄与できるかどうかだと思う。継続性が見えるのであればお金をかける価値があると考えられる。各地のセレクションや対策練の参加者数を見ると、昨年よりは状況が良くなっていると言えるだろう。
【永山】　会計上可能であるならばやったほうがいいものだと思うので、まずは学連負担にするか参加者負担にするかを決める。参加者負担にするのであればそれを幹事会で決めてしまうか総会で決めるべきかを考える。学連負担にするのであれば、学連が負担して大丈夫かどうかを確認するということでいいのではないか。
【浴本】　学連か参加者かで分けるのではなく、ハイブリット型も考えられるのでは。一部を学連負担、一部を参加者から徴収という方法もあるだろう。寄付金を募ることもできるだろう。
【永山】　寄付金は見通せるものでないので、それを前提にするのはよくない。ハイブリット型もいいが、はっきり分けたほうがいいだろう。個人的には参加者負担にするのが継続性という点から見てもベストだと思う。基本は参加者負担とし、それで足りない場合に学連から補助をするというのがいいのではないか。
【若月】　まとめると、お金の問題が解決されるならばやりたいというのが総意。継続性の問題を考えると参加者に負担を求めることが望ましい。その上で参加者の負担を増やすことをこの場で決めるか、それとも総会で合意を得るかを決めるのがいいのではないかというところに落ち着いている。

【永山】　補足として、今回の予算は低く見積もっているもので、参加者が増えれば収入は増えるし、演出費が削れればその分も同様。参加者負担にすることで問題はないだろう。
【粟生】　幹事で決をとってまずは幹事会としての方針を固めるべき。
【若月】　そうですね。まずは金銭面の問題が解決されるのであれば配信事業は行うべきと考えるかどうかについて決を取る。賛成の方は挙手をお願いします。
全会一致で上記は幹事会の総意とする。
【若月】　金銭問題が解決されるならば配信事業を行うということは合意が得られた。次のステップとして、金銭問題解決のために①学連から負担をする②参加者から参加費の上乗せという形で徴収する③学生から資金のねん出をすることは認めない、の 3 択がある。今回は学連の意見を固めたいので、まずは学連および学生から徴収することを認めるかどうかについて挙手を求める。
学連及び学生からの支出を認める者が 13 名、認めない者が 3 名。
【永山】　今回は実行委員会が先に意見を聞いておきたいというもので、実際に組まれた予算をもとに正式な決定を行うことになる。
【若月】　では一旦、以上の内容を学連の意見としてお返しするということでよろしいでしょうか。
【前中】　はい。

【若月】　続いて開催形態についての議論に移る。
【前中】　現在 2 日間開催を前提としているが、この前提について吟味されていない点が気になっている。実行委員会としては 2 日間開催を目指していて、状況次第では単日で分ける、片方のみの開催といった可能性も視野に入っている。この開催形態について幹事会の議論がなされていないまま 2 日間開催が決まっていると聞いたため、この幹事会でコンセンサスを取って二日間開催前提で進めていいかどうかを決めてほしい。
【若月】　こういった話が出てきたのは、大学から宿泊を認められているかどうかが参加のネックになる可能性があるというからことですよね？
【前中】　はい。昨年度のミドルリレーの開催形式の議論がこれに近い。2 日間開催できない危険も大いにあるため、最初から 1 日を前提として開催するという道もあるだろう。ただし、2 日間の方がスプリントに人が集まりやすいという議論もあるため、どちらがいいのかという話である。
【若月】　今の内容について意見がある人はいるか。
【浴本】　昨年のスプリントは単日開催であったが、スプリント一日のためだけに関西から行くのは厳しいという意見が見られた。開催地から遠方の大学の学生のためにも、2 日間開催がされることが望ましいと言える。
【松本】　質問です。基本は 2 日間でやりたいが、2 日間だとリスクがある場合に備えて 2

日間前提の考え方を改めるかどうかということか。
【前中】　そうですね。もともと単日にするメリットというのはあまりないと思う。後で話すことでもあるが、運営上 2 日間開催が厳しいとなった場合単日開催せざるを得なくなるだろう。
【若月】　学連として 2 日間開催を目指すべきかどうかについて意見を固めたい。
全会一致で 2 日間開催を目指すべきという方針が固まった。

【前中】　ここからは 2 日間開催か短日開催か中止かを決定するプロセスを検討する。その開催形態の判断の時期がいつになるかは実行委員会で決めるが、その決定の基準については学連側に決めてもらいたい。たとえば昨年の場合は「選手権参加者の 3 分の 2 以上が参加可能の場合」といった基準があったと思うが、そういったものである。今決めてほしいという話ではないが、今後実行委員会側からスケジュールについて随時連絡していくのでその際には開催形態決定のための条件を検討してもらいたい。また、スプリントとロングのどちらかをずらさなければならなくなった場合にどちらが好ましいかも併せて決めてもらいたい。もちろん、運営上の制約で決定と反する可能性は大いにある。日程を動かす場合の予備日も検討したいが、これについては学連で決めることかどうかわからないため一旦保留とする。これについては各校の状況にもよると思う。
【若月】　一旦予備日の話は置いておき、今後は「開催の条件」と「単独開催となった場合にどちらを動かすか」について決めていく。
【前中】　これについては大学側の決定なども関わってくると思うので、今後若月君などと話し合っていければと思う。
【若月】　実行委員会、各地区学連、各大学とのやりとりも含め、情報共有してやっていければと思う。

【若月】　それでは一つ目の議題である秋インカレに関する議論は以上とする。

【若月】時間も押しているので、次の議題であるインカレ実施規則の議論で本日の会議は終了とする。残りの議題についてはオンラインミーティングで対応する。

２．インカレ実施規則
【若月】　インカレ実施規則およびガイドラインにおいて、最新版のものと対応していないものや現実に即していない部分があるとのことだが、技術委員会の谷川さんから説明をお願いします。
【谷川】　日本学生オリエンテーリング選手権実施規則に基づいてインカレを開催しているが、現状に則さない部分があり毎回不適用事項が発生している。あまり重要でない項目で不適用事項を作る状況となっているため改訂したい。また、4 月 1 日から日本オリエンテー

リング競技規則も変更があったためそれに合わせて今回更新をしたい。今回の改定案に出したものもほとんどは競技規則の変更に合わせている。ここ数年、競技規則と実施規則が違う部分が毎回不適用事項になっているため、それの解消もされる。
【若月】　実施規則についてはインカレ開催のたびに逸脱事項があり、理事会で承認をするという作業があった。それを解消するために今回提案いただいた。この幹事会では変更の方針を共有するとともに、秋インカレでの更新を目指して動きたい。総会の議決により改訂がされるので、早めに幹事会として共有をし、総会の開催を目指す。
　不適用事項がある場合は開催 2 か月前までに理事会に申し出る必要があるため、2 ヶ月前までには少なくとも改定案ができている状態にしたい。そのため今後のスケジュールとしては秋インカレでの適用を目指すことから逆算し、開催 2 か月前である 8 月中に改正案を固め臨時総会で承認を得たい。そのためその 1 か月前の 7 月中に幹事会および技術委員、実行委員会の確認をいただいた上で総会に上げる。何か不都合が生じるなどの方はいるか。
【谷川】　補足として、今回の改定案は文言の変更ではなく、内容に関してこうしたほうがいいのではないかという草案である。意見をいただいて正式な案を改めて出すことが望ましいだろう。
【若月】　今回挙げられた改正案をベースにし、1 か月程度の時間をかけて仕上げていきたい。Slack 等を利用して正式に文言を作っていくという方針でいいか。
【谷川】　はい。全体的にオリエンテーリング競技規則に則っているが、一部ある逸脱する事項について紹介しておきたい。1 つめは 5.2 の申込用紙について。申し込み時に用紙は用いないためこの項目を削除したい。2 つ目にシード選手の決定について。現在シード選手は 8.2 の項目に基づき理事会が決定することになっている。今は技術委員の推薦をもとに理事会が決定している。理事会が決定する必要はあるのだろうか。「イベントアドバイザーの承認を必要とする」程度に留めておくほうが、運営的にもよいだろう。
【谷野】　その場合はシード選手の決定を実行委員会ができるようにするということか。
【谷川】　はい。ただしイベントアドバイザーの承認が必要。イベントアドバイザーは技術委員の中から日本学連の人間として運営側に派遣しているため、実行委員会が決めたとしてもそれは日本学連の承認と言えるだろう。
【前中】　イベントアドバイザイーの話だが、イベントアドバイザーを技術委員会から選ぶことは現実的でないという話であるがどうなのか
【谷川】　技術委員から出す意義については、実行委員会は大会ごとに結成される学連外部の集団である。そこに対して日本学連側から人を出して規則に則っているかを見るというのがイベントアドバイザーの役割となっている。日本学連の人間を送り出すという形をとることに意味がある。
【前中】　考え方は分かるが、実情として守れていない、形式化している規則に意味はないのではないだろうか。イベントアドバイザーを技術委員会が承認するという形はどうなのか。承認することと日本学連の中の人を派遣することは意味合いが少し異なるとは思うが。

形式上のルールを続けることとどちらがいいかは分からないが。
【谷川】　公認大会のイベントアドバイザーについては、JOA 内部の人間でないものの資格を持った人間である。一方でインカレについては資格があるわけではないので、同様には言えない。
【前中】　インカレのイベントアドバイザーを JOA の資格を持った人から起用するのはどうなのか。
【谷野】　逸れに関しては、日本学連の背景を知っている人間に一任するという意味だと考えている。たしかに実態に即さない部分があるので、「技術委員長が承認する」のように簡潔化もできるだろう。
【前中】　技術委員会から出すのがよい形と言っても実際にはできていない。インカレ 1 年前に指名することができていないし、遡及して 1 年前から技術委員だったことにするというのもさすがに良くない。たとえば半年前にするなどして、規則通りできるようにするべき。指名は規則通り行うとして。
【谷野】　技術委員会やインカレ実施規則について補足で説明をします。インカレはインカレ実施規則に基づいて開催されている。技術委員会はインカレの質の担保という役割も担っているが、現状としてうまく機能していない部分もある。昨年の議題にも挙がったが、体制がうまくいっていないところがある。技術委員会の見直しも必要である。イベントアドバイザーは、技術委員会の人が大会のイベントアドバイザーになることで質が担保されるという考えから規則として定まっている。また、何か月前に実行委員会を結成する、などの規則も定められている。ただし、これらをあまり守れていないという現状がある。
【谷川】　質問だが、今回は実行委員を決めるのは規則通りに行えているのか？
【前中】　実行委員の招集は 1 年前時点で行えていない。
【谷川】　とは言え、今できていないからどんどん短くする、というものでもないだろう。今の幹事を見ていると、1 年という期間は少し現実的でないと言えるだろう。
【前中】　近年のインカレは 1 年前からきちんとできているのか？
【山川】　ガイドライン文書があって、その中では「一年前にテレインが決まっていること」と明記されている。テレインと重役人事は 1 年前に決まっている状態を目指そうと明文化されている。
【前中】　これに合うように実態を変えていこうという話になるか。
【山川】　インカレ規則もこれに合うように変えてくれれば拘束力が強くなる。
【谷川】　そこの部分は規則に合うようにやっていこうという流れにするのがいいのではないか。
【前中】　それであれば特に異論はないですね。わかりました。
【若月】　ありがとうございます。実施規則に関連して質問意見等あれば。無いようなので、このインカレ実施規則の改訂については引き続き Slack などで推し進めていく。
続いてスプリントガイドラインの見直しについて。過去に一度、一昨年の幹事会で議論に上

がって以来放置されていたが、実行委員会側からの要望もあり見直しを進めたい。今回は内容を共有し、今後の議題として実施規則の改正と同様のスケジュールで進めていく。こちらについて補足、意見、質問等ある方はいるか。

【山川】　5 年前に私が書いたものがそのまま残っていて、全く現状に即していないものである。前体的に書き直しを行う必要がある。IOF のスプリント規則は演出関係と公平性の担保に関して詳細に書かれており、すべてを写すと学連には重すぎる内容になっている。けれどもとりあえず読み合わせて勉強会をしようということになっているらしい。

【若月】　スプリントガイドラインは学連主体で見直しをするということでいいのか。

【山川】　そうです。

【谷野】　インカレスプリントのガイドラインについて補足すると、インカレスプリントというのは 6 回しかやっていない歴史の浅いものである。インカレスプリントを開催するにはどうしたらいいのかをまとめたものがインカレスプリントガイドラインである。

【山川】　インカレスプリントガイドラインは手探りで、5 年で見直すとしていたが昨年見直されなかった。

【若月】　2015 年 4 月に制定されたもののようですね。これについても次のインカレスプリントでの適用を目指して改正を行うことになると思います。

【山川】　書き換えどころではない。世界の価値観も変わっているのでほぼゼロから創り上げることになる。

【谷野】　ガイドライン自体も幹事内で決めるだけでなく、技術委員会や実行委員会へのヒアリングなどを経て行われたい。

【若月】　わかりました。ひとまずこの場ではこういったことがあるということをご認識ください。

【谷川】　もう一つ変えたい事項がある。競技者の枠数の配分に関する規則で変えたい部分がある。インカレロング競技者数及びその配分に関する規則の 3.3 最大数について。これは最近できたもので、中九四の構成員が 0 だったためにできた。中九四の学連登録者数が 0 だった時に、 0 人のところに 2 枠が割り振られ、その割り振られた枠を返上して再配分されるということが例年続けられていた。それももっと昔は、返上したものを再配分するということはなく、エントリーが無かった分は欠員としていた。いつの頃からか返上されて再配分するというのが習わしとなっていた。こういった背景があり、返上して再配分するというのをなくすために加盟員のいない学連に枠を割り振らないようにするという意味のものが「最大数」という項目である。しかし数年前に加盟員がいるところに枠を割り振ったもののエントリーが無く、それを再配分するかという話が出てきた。枠を配分したものについて、エントリーが無かった場合は欠員として枠を再配分しないという形に戻したい。それをすると何がいいかというと、今枠数を計算するには 6 月 30 日時点の加盟員の数を反映するという規則があるため。したがって 6 月 30 日を過ぎないと正式な枠の数を決定できない。それを今言ったように改訂した場合、次年度のインカレロングの枠配分が、その年インカレロ

ングの結果が出た時点で決定できるようになるというメリットがある。これも総会を開催しないと改訂できないのでお願いしたい。ちなみに、どの地区学連にも十分な加盟員がいて枠を振った数に対してエントリーがなされた場合は今回の変更による影響は無いので、この改訂によりどこかが損をするという話にはならないはずである。
【若月】　これについても今年度の秋インカレでの枠インカレで適用するべく、6 月までに総会で決めるということでよいか。
【谷川】　ちなみに今年度の中九四の加盟登録者数は、男子 2 名女子 1 名以上いるのか。いるのであれば慌てて変える必要はない。
【若月】　中九四の現状は。
【牧島】　今年度からは現時点で男子 9 名女子 1 名となっている。
【若月】　ありがとうございます。あわてる必要はないが、こちらについても実施規則と同様のスケジュールで今後総会での承認を経て正式に施行することを目指したい。

残りの議題についてはオンライン上で行う。

【山川】　最後に新規地図作成事業関係と地図販売関係の話をします。昨年度の最後の幹事会の際の地図の値上げの議論の際にも出したが、昨年度の地図売り上げは 150 万円くらい。山川 Dream、しおや 4days と巨大地図による売り上げが 6 割以上を占めており、学生による利用は 4 割にも満たない。学生による利用が少ないという傾向は今年も続いているが、注文を受けている数に関しては昨年と比べると数字が良い。また、来週の対策練に新入生が 100 名以上来るなど良い状況になってきているので今後の地図売り上げにも期待したい。今年度のうちは 350 円から 400 円への地図の値上げが続くということで、まあまあの増収は見込める。
第 9 弾の茨大の大会が延期になっているが、開催された場合には新規地図作成事業の成果を見せることができるだろう。第 10 弾は、大会名こそ変わったものの無事終了することができたので清算したいと思う。調査依頼ゼロで終えることができて東工大の面々はとても喜んでいた。茨大の大会にも期待してほしい。第 11 弾も計画中で、今日は用意できなかったが推薦書を出すのでその際は審議をお願いします。
【若月】　ありがとうございます。他にないようなのでこれで第一回幹事会は終わりとします。